

ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況 (2007年1月~2月)

気象庁

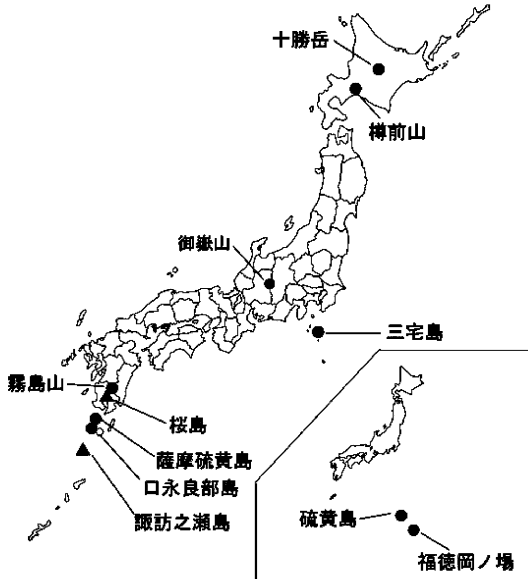


図 1. 2007年1月~2月に目立った活動があった火山  
 ▲: 噴火した火山  
 ●: 活動が活発もしくはやや活発な状況であった火山

●十勝岳 (43° 25' 05" N, 142° 41' 11" E)

十勝岳では、昨年1月以降、62-2火口の噴煙活動や火口温度は次第に低下し、火山活動は静穏な状況となった。

26日に行った上空からの観測(北海道開発局の協力による)でも62-2火口の噴煙は弱い状態で、火口の状況に変化はなかった。また、火山性地震は少ない状態が続いており、火山性微動は観測されず、地殻変動に特段の変化はなかった。

●樽前山 (42° 41' 26" N, 141° 22' 36" E)

山頂溶岩ドーム周辺のA火口およびB噴気孔群では依然として高温状態が続いていると推定される。各火口の噴煙活動に特段の変化はみられず、噴煙高度は火口縁上概ね100m以下で推移した。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。地殻変動観測では、火山活動によると思われる変化はなかった。

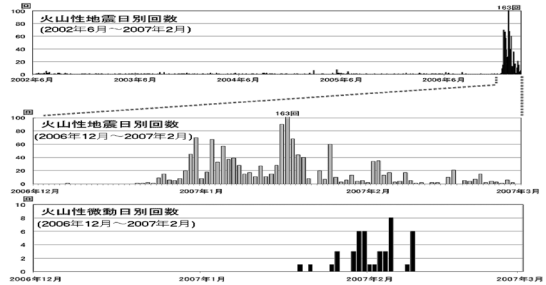


図 2. 御嶽山 火山性地震及び火山性微動の発生状況

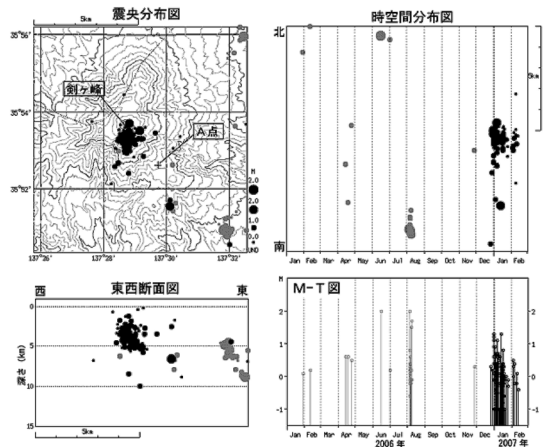


図 3. 御嶽山 山頂付近の地震活動 (2006年1月~2007年2月)

●御嶽山 (35° 53' 34" N, 137° 28' 49" E)

昨年12月下旬から山頂付近の浅い所を震源とする体を感じない程度の微小な火山性地震が増加し始め、増減を繰り返しながら1月中旬頃にピークとなった。その後、火山性地震は次第に減少傾向が認められたが、依然としてやや多い状態で経過した。また、1月19日以降、振幅の小さな火山性微動が断続的に発生し30日頃からやや増加したが、2月10日以降は観測されなかった。御嶽山では、山頂部で地震が多発したのは1991年4月~7月以来、火山性微動が発生したのは1995年8月29日以来である。

気象庁及び国土地理院によるGPSの地殻変動観測では、昨年12月から御嶽山の地下での膨張を示すと考えられるわずかな伸びの変化が認められ、2月中旬頃からは鈍化傾向となったが、ゆるやかな伸びが継続した。

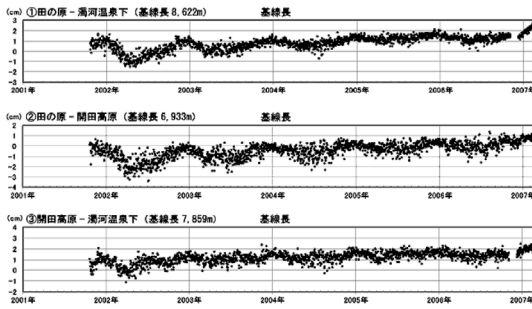


図 4. 御嶽山 GPS 連続観測による基線長変化 (2001年1月～2007年2月)

剣ヶ峰の南東約 14 km に設置してある遠望カメラでは、山頂部の噴気等は観測されなかった。また、長野県木曾建設事務所による御嶽滝越カメラ（剣ヶ峰の南西約 7 km に設置）でも、剣ヶ峰南西側の地獄谷下部に從來から見られていた弱い噴気が時々認められた程度で、特に異常はなかった。1月23日（長野県の協力による）及び2月6日（岐阜県の協力による）に行った上空からの観測でも、剣ヶ峰南西側の地獄谷付近に從來から見られていた弱い噴気が確認された程度で、地表面温度分布に特に異常は認められなかった。

#### ●三宅島 (34°05'37"N, 139°31'34"E)

噴煙活動は引き続き活発で、多量の火山ガス（二酸化硫黄）の放出が続いている。

1月12日、25日及び31日、2月6日、16日及び21日に実施した観測では、二酸化硫黄放出量は一日あたり 900～4,500 t で、依然として多量の火山ガスの放出が続いている。なお、三宅島の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

噴煙活動は活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね 200～300 m で推移した。火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いている。火山性微動は観測されなかった。

1月10日（東京消防庁の協力による）及び2月7日（海上自衛隊の協力による）に行った上空からの観測では、火口内の地形等に特に大きな変化はなく、山頂火口南側内壁に位置する主火口及びその周辺の地表面温度分布にも特段の変化はなかった。地磁気全磁力観測では山体内部の熱の状態には特に大きな変化はなかった。

GPS による地殻変動観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続している。

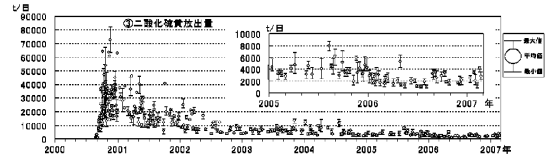


図 5. 三宅島 火山ガス（二酸化硫黄）放出量の変化 (2000年1月～2007年2月)

#### ●硫黄島 (24°45'03"N, 141°17'20"E)

国土地理院の GPS 観測によると、昨年8月以降、島北部の元山地域付近で大きな隆起が続いており、11月中旬から12月末にかけて隆起量がかなり大きくなった。1月以降、隆起はやや鈍化する傾向が見られているが、依然として続した。また、防災科学技術研究所の地震観測によると、大きな隆起の地殻変動とはほぼ同期して、昨年11月中旬から島内の火山性地震が増加する傾向が見られ、12月末には一時的な多発もあった。しかし、1月に入り地震活動は低下して、2月には落ち着いた状態となった。

#### ●福徳岡ノ場 (24°17.1'N, 141°28.9'E)

1月19日及び2月19日に海上自衛隊が、また、2月1日に第三管区海上保安本部が行った上空からの観測で、火山活動によるとみられる変色水が確認された。

#### ●霧島山 (31°53'11"N, 130°55'08"E (高千穂峰)) (新燃岳の活動状況)

昨年12月3日に火山性地震が一時的に多発し、その後も火山性地震は消長を繰り返しながらやや多い状態で経過したが、次第に減少し、今期間には少ない状態となった。火山性微動は観測されなかった。また遠望カメラ（火口の南西約 7 km に設置）では、火口縁を超える噴気は観測されず、地殻変動に火山活動によるとみられる変化はなかった。

#### (御鉢の活動状況)

昨年12月下旬から、振幅の小さな火山性微動が時折観測されていたが、5日に振幅のやや大きな火山性微動が発生した。なお、火山性地震は少ない状態で経過し、火口縁を超える噴気は認められず、地殻変動に特段の変化はなかった。

#### ▲桜島 (31°34'38"N, 130°39'32"E (南岳))

南岳山頂火口では1月2日、2月10日、13日、16日に爆発的噴火が発生した。1月2日の噴火では、噴煙が火口縁上約 2,500 m まで上がり、噴石が五合目まで飛散し

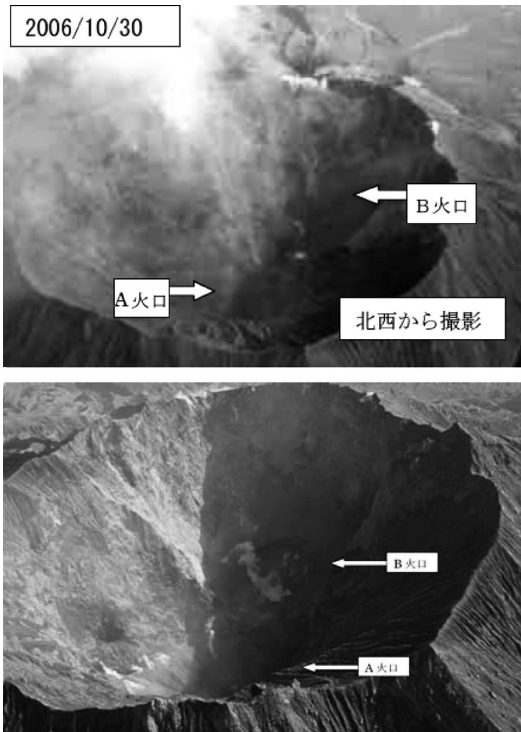


図 6. 桜島 南岳山頂火口の状況（上：2006年10月30日撮影（海上自衛隊の協力による）、下：2007年1月12日撮影（大隅河川国道事務所の協力による））

た。昭和火口では、噴火は発生しなかったが、弱い噴気が時々観測された。

1月12日に行った上空からの観測（大隅河川国道事務所の協力による）では、2004年11月以降、土砂等が堆積していたB火口内に噴火によると見られる孔が開いているのが確認された。噴出物や噴煙の状況から、2日の爆発的噴火はB火口で発生したと推定される。

2月16日に行った現地観測では、昭和火口周辺に継続して高温域が認められた。

火山性地震や火山性微動はやや多い状態が続いており、振幅や火山性微動の継続時間がやや増大する傾向が認められている。GPSによる地殻変動観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入による膨張が引き続き観測されている。

●薩摩硫黄島（30°47'35" N, 130°18'19" E（硫黄岳））

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は依然としてやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上200mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。振幅の小さく継続時間の短い火山性微動が時々観測された。

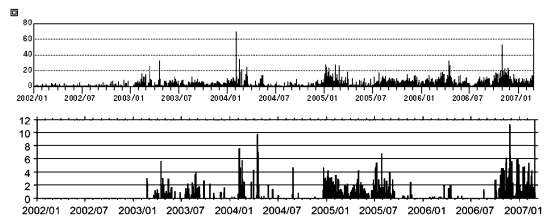


図 7. 口永良部島 火山性地震（上）及び火山性微動（下）の発生状況（2002年1月～2007年2月）

●口永良部島（30°26'36" N, 130°13'02" E（古岳））  
火山性地震及び火山性微動がやや多く、新岳火口周辺で熱活動の高まりが観測されている。

火山性地震及び火山性微動のやや多い状態が続いている。

1月12日に行った現地調査では、新岳（しんだけ）火口内及びその周辺で引き続き熱活動の高まりが認められた。

京都大学防災研究所及び産業技術総合研究所のGPSによる地殻変動観測によれば8月以降新岳火口付近の膨張傾向が認められていたが、気象庁のGPSによる観測では新岳の膨張を示す傾向は昨年12月以降鈍化している。

遠望カメラ（新岳（しんだけ）の北西約4kmに設置）による観測では新岳火口周辺の噴気地帯で高さ10m程度の弱い噴気が時々認められた。

▲諏訪之瀬島（29°38'18" N, 129°42'50" E（御岳））

1月9日、10日、28日、2月5～7日、19日、20日に爆発的噴火があった。このほか、十島（としま）村役場諏訪之瀬島出張所によると、小規模な噴火も時々発生した。2月20日には一日で16回の爆発を観測した。

火山性地震はやや多い状態で経過した。また、噴火活動に伴い火山性連続微動が発生した。

（お知らせ）最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

火山活動解説資料

URL [http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.htm](http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm)

（文責：気象庁地震火山部火山課 相澤幸治）

○教員公募

【北海道大学理学研究院自然史科学研究部門地球惑星ダイナミクス分野】

1. 職種・人員：自然史科学部門地球惑星ダイナミク